

子どもの健康と病気の予防⑧

— 日本脳炎 —

小宅医院 小宅民子

日本脳炎は蚊に刺されて感染する病気です。蚊とブタなどの家畜を介してヒトに感染します。日本脳炎ウイルスに感染したブタを蚊が刺し、その蚊から刺されヒトが感染します。日本脳炎に感染した人のほとんどは無症状ですが、100人～1000人に一人が日本脳炎を発症するといわれています。死亡率は20～40%と高く、回復しても半数以上に重い後遺症が残ります。有効な治療法はなく、ワクチンによる予防が重要です。

西日本、特に九州、四国はブタの日本脳炎抗体保有率が高く（日本脳炎に感染しているブタが多く）、発症リスクが高い地域です。また九州、四国では3歳以下の小児の日本脳炎発症が報告されています。従来、日本脳炎ワクチンの標準的接種時期は3歳からといわれてきました。しかし、最近日本脳炎が発生した地域、ブタの日本脳炎抗体保有率が高い地域に居住する小児は生後6ヶ月から日本脳炎ワクチンの接種を開始することが推奨されます。

昨年より日本脳炎ワクチンの製造量が不足する状況が続きました。その結果、ワクチン接種が受けられない、ワクチン接種の間隔が規定よりあいてしまうケースがありました。今年の春よりワクチンが安定供給されるようになり、現在は計画通りに接種できます。

定期接種で受けられる年齢は、1期（1～3回目接種）は、生後6ヶ月から生後90ヶ月（7歳半まで）となっています。2期（4回目接種）は9歳以上13歳未満です。

夏になり蚊が多い季節になる前に、日本脳炎ワクチンを接種しましょう。

日本脳炎5つのポイント

- 感染したブタを蚊が刺し、その蚊がヒトを刺し感染する。
- 治療薬はなく、ワクチンによる予防が重要。
- 大分県は発症リスクが高い地域。
- 生後6ヶ月からの早期接種が推奨される。
- 蚊が多くなる夏までに接種を完了することが望ましい。